

RSウイルス感染症の報告数が増えています

2021年7月9日

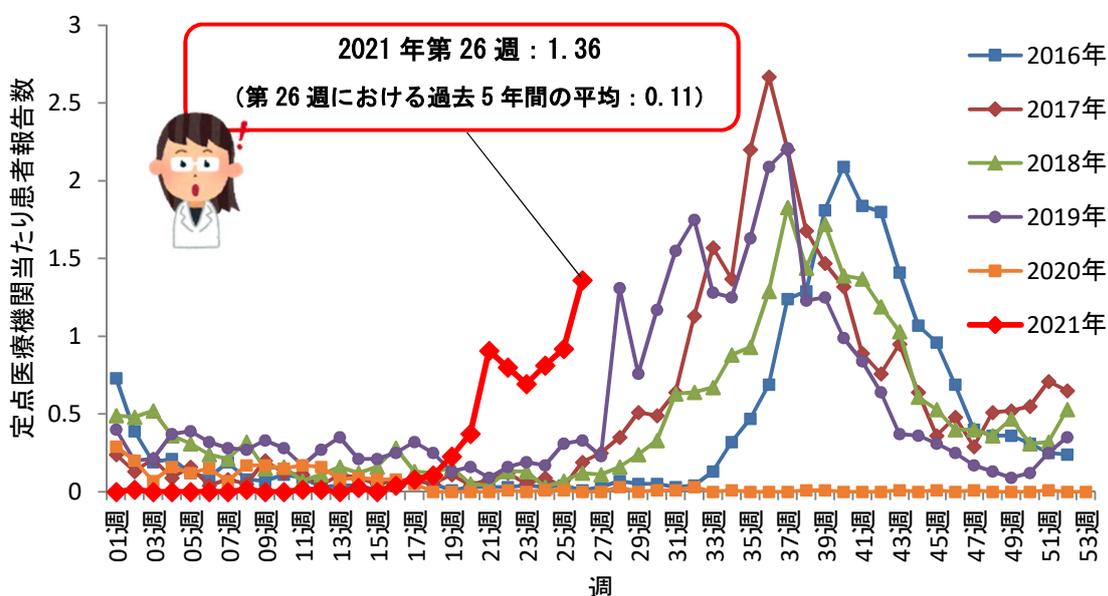
茨城県衛生研究所(感染症情報センター)・茨城県保健福祉部感染症対策課

県内の報告数

2021年第21週以降、継続して例年の同時期に比べて多い数が報告されています。RSウイルス感染症は冬季が流行のピークとされてきましたが、近年その流行開始時期は早くなる傾向にあります(2020年は流行がありませんでした)。2021年は、全国的にも報告数が増える傾向が続いていることから、今後も注意が必要です。

*国立感染症研究所 感染症発生動向調査週報(IDWR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

RSウイルス感染症の定点医療機関当たり報告数・茨城県(2016-2021年)



RSウイルス感染症とは

RSウイルス感染症は、乳幼児に多くみられる呼吸器感染症です。潜伏期は2~8日であり、生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の人がRSウイルスの初感染を受けます。

主な症状は、発熱、鼻汁などの上気道症状ですが、初感染のうち約20~30%で気管支炎や肺炎などを起こすとされており、また乳幼児においては、肺炎の約50%、細気管支炎の約50~90%がRSウイルス感染症によるとされています。

感染予防について

主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、手指や物を介した接触感染です。マスク着用や咳エチケット、手洗いやよく触れる物・場所の消毒といった基本的な感染対策をすることが予防には有効です。

